

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 平成29年7月5日から平成30年2月28日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B15018、050222、050482	

### 2 福祉サービス事業者情報（平成30年 1月現在）

事業所名： (施設名) 須坂市立 須坂千曲保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 三木 正夫 園長 吉澤 はるみ	定員（利用人数）： 60名（70名）
設置主体： 須坂市 経営主体： 須坂市	開設（指定）年月日： 昭和44年4月1日
所在地：〒382-0055 長野県須坂市大字中島250-1	
電話番号： 026-245-1665	FAX番号： 026-245-1665
ホームページアドレス： <a href="https://www.city.suzaka.nagano.jp/">https://www.city.suzaka.nagano.jp/</a>	
職員数	常勤職員： 11名 非常勤職員： 10名
施設・設備 の概要	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・園長補佐 1名
	・保育士 15名 ・保育支援員 1名 ・給食調理員 3名
(設備等)	(屋外遊具等)
・乳児室 … 1室・ほふく室…1室 ・保育室 … 4室・遊戯室 …1室 ・調理室 … 1室・事務室 …1室 ・便所 … 5室・会議室 …1室 ・子育て支援室 … 1室	・鉄棒 ・滑り台 ・はん登棒・ジャングルジム

### 3 理念・基本方針

<p>○須坂市の保育理念 より安心・・・安全・・・充実</p> <table border="1"><tr><td>・養護面 ・受容と共感</td><td>・体づくり ・あそび ・食育 ・保護者支援 ・危機管理</td></tr></table>	・養護面 ・受容と共感	・体づくり ・あそび ・食育 ・保護者支援 ・危機管理
・養護面 ・受容と共感	・体づくり ・あそび ・食育 ・保護者支援 ・危機管理	
<p>○須坂市の保育方針 ・一人ひとりの人権や主体性を尊重しながら子どもの育ちや保護者の子育てを支えます。</p>		

- ・須坂市の豊かな自然や、伝統ある文化の中で、地域社会と連携して子どもを育てる環境づくりに努めます。
- ・豊かな愛情を持って接し、保育内容を充実させるために知識の取得と技術の向上に努めます。

#### ○須坂市立須坂千曲保育園の保育理念

- ・すべての子どもが等しく、安心して預けられる保育園を目指します。
- ・一人ひとりの子どもを大切にし、発達の保障をします。

#### ○須坂市立須坂千曲保育園の保育目標

**養護：**十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図る

#### **教育：**健康な子ども

- ・基本的な生活習慣を身につける
- ・食育(栽培・収穫・味わう・食物について知る)
- ・年齢に合わせた体づくりをする(柳沢プログラム・リズム遊び・アスレチック・戸外あそび)

#### 思いやりのある子ども

- ・友だちや地域の人と仲良くあそぶ
- ・異年齢交流で相手を思いやる気持ちや自分を大切にする心を育てる

#### 意欲的に取り組む子ども

- ・自然の中で思い切りあそぶ
- ・いろいろなことに発見・驚き・興味をもって遊ぶ

#### 言葉を豊かに使う子ども

- ・気持ちのいいあいさつをする
- ・歌・絵本・紙芝居・読み聞かせを楽しむ
- ・人の話を聞いたり、自分の気持ちを表現する

#### 創造力のある子ども

- ・感じたことを描いたり表現して遊ぶ
- ・想像したり作ったりして楽しむ

## 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当須坂千曲保育園は須坂市が運営する10園の一つで、現在小規模の60名定員として運営されており、旧園舎で昭和44年に認可を受け、平成26年4月に現在地に新築移転し今日に至っている。同じ小学校区に公立の他の保育園があり、また、移転前の旧園に通う子どもの数も30人前後と少なかったこともあり、一時、存続が危ぶまれたが、地元3地区の人々の熱心な要望もあり、また、市内の他の保育園では0歳児の受け入れにも限りがあったことからその0歳児の受け入れを強化するためにも存続されることとなり旧園舎からおよそ300m北側に新築移転した。

当保育園は須坂市の西部に位置し、上信越自動車道の須坂長野東インターにも近く、須坂市北部から須坂長野東インターや長野市東部地域に抜ける幹線道路があり、新しい園舎も道路沿いであり園庭や駐車場も広いことから市内西部や長野市内の企業に通勤する保護者にとっては利便性が良く、本来の小学校区の子どものだけでなく他の小学校区の子どもの利用も増え、許容されている定員の20%増しの70名前後の利用者数で推移している。園の周りには桃・ブドウ・りんご等の果樹園があり、少し足を延ばすと千曲川の土手やほりにある緑地、高速道路の土手にも達することが

できる。

現在、当保育園には、0歳児6名のもも組、1歳児8名のつくし組、1歳児2名と2歳児9名のたんぽぽ組、3歳児18名のちゅうりっぷ組、4歳児15名のばら組、5歳児12名のひまわり組などの6クラスがあり、それぞれの発達段階に合わせた「健康な子ども」、「思いやりのある子ども」、「意欲的に取り組む子ども」、「言葉を豊かに使う子ども」、「創造力のある子ども」という当園の教育面での保育目標の実現に向けて具体的に取り組んでいる。

当保育園では通常保育のほかに、保護者のニーズに合わせ延長保育や土曜保育(他の2園も含めた3園による拠点方式で4ヶ月毎に交替で実施)、一時的保育(3歳未満児と3歳以上児)、未就園児交流、園の開放、子育て相談、子育てセミナー等も実施している。

延長保育は短時間保育の子どもが時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的にご利用される保護者がいる。また、一時的保育についても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担解消等による預かり保育を行うサービスで、半日又は1日単位で実施している。当保育園では特に0歳から2歳児までの一時的保育を市内保育園の拠点園として実施しており専任の保育士を1名確保している。未就園児交流は未就園児親子が来園し、在園児の様子を見たり交流し、子育て相談も行うサービスで年度初めと年度末を除きほぼ1ヶ月に1回、実施している。

当保育園では「須坂市こども・子育て支援事業計画」及び「平成29年度須坂市立保育園グランドデザイン」に沿って「平成29年度須坂千曲保育園グランドデザイン」を作成し、当園として市立保育園グランドデザインの結びの「評価の推進」に図示された「・自己評価 ・保護者 地域の声 ・第三者評価」という流れを忠実に実行するために「Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)」というサイクルを継続して行い、新しい施設や遊具などの恵まれた物的環境や豊かな自然環境を融合させるべく職員の保育の質を高めることで子どもの望ましい未来を創り出す基礎を培いつつ健やかに成長できるよう尽力している。

当保育園の教育面での保育目標の「思いやりのある子ども」では「異年齢交流で相手を思いやる気持ちや自分を大切にすることを育てる」としており、3歳児、4歳児、5歳児全員がホールで食事をしたり、「てんとうむし」、「恐竜」、「りんご」の3つのチームを年齢を超え編成し、散歩やゲーム対抗、運動会などで力を合わせている。また、未就園児についても散歩途中で草花や生き物たちを見つけ、行き会った人々などと関わりを持つなど年齢に合わせた戸外あそびをしており、園として今年度10月に「地域の自然環境を生かした未就園児保育」というテーマで公開保育も実施している。

当保育園の保護者アンケートでも「落ち着いて過ごせる環境」、「登園時の家庭での子どもの様子等について園に気軽に話ができること」、「食事の充実」、「散歩等で戸外にでる機会が多いこと」、「発育や意欲を促すような活動・遊び」、「子どもの長所への理解と個性の尊重」、「降園時に子どもの様子等について園から気軽に話を聞けること」、「降園時の満足した子どもの表情」、「開園時間内での保護者の急な残業等への柔軟な対応」、「子育てに関する気がかりな点等について気軽に相談に応じてくれること」などの項目に好感を示す保護者が多く、職員が当園のグランドデザインの養護面と教育面の保育目標を具現化すべく、豊かな自然の中でのびのび育ち、友だちや地域の人と触れ合っ楽しく遊び、保護者の気持ちに寄り添い安心して預けられる保育園づくりに向けて一人ひとりの職務内容に応じて必要な知識及び技能を身に付け専門性を活かした保育に取り組んでいる。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数(前回の受審時期)	今回が初めて
---------------	--------

## 6 評価結果総評(利用者調査結果を含む。)

### ◇特に良いと思う点

#### 1) 立地、自然環境を生かしたきめ細かな保育

ひと言で言えば、「Hand Madeの香り」が園内の随所に感じられ、心地よい温かさも感じられる園で、保育スタンスとして、園児の気持ちと自主性の尊重が職員間に浸透しており、また、立地、自然環境を十二分に生かし、きめ細かな保育に心掛け実践している。

保育児童数の定員 60 名という規模的な部分で職員の目もしっかりと一人ひとりに行き届きいており、子どもと職員、保護者と職員の関係も密接であるので困ったことがあった時なども相談がしやすい。また、自然に異年齢での交流が出来ており、年下の子どもが年上の子どもからいろいろ刺激を受け、年上のクラスだけでなく年下のクラスとも接することで優しさや思いやりの心を養うことに繋げている。園児の散歩などで地区内の井上保育園、また井上小学校とも頻りに交流し、園内で工夫・実践されている異年齢交流に加え、園外同世代との交流、園外異年齢交流が活発に行われ功を奏している。

散歩コースは年齢に応じていくつかのコースがありその途中で地域の人々とも挨拶を交わし、園の周りには果樹園が多いことからワッサー(桃)やリンゴの収穫体験に招いていただいたり、JA 青年部の方にさつま芋づくりの指導を受けたりしている。また、散歩途中で子どもたちが知らない草花や生き物に出会うこともあり、ザリガニやドジョウ、ヤゴ、カタツムリ、カブトムシ、ダンゴムシなどを園に持ち帰り園内で飼育することにより生命あるものへの興味を引き出すとともにその尊さを学んでいる。更に保育園の畑で野菜を栽培する中で色々な体験をしており食の大切さも学んでいる。

当保育園として今年度 10 月に「地域の自然環境を生かした未満児保育」というテーマで公開保育を実施しており日ごろの地道な取り組みを成果として発表している。

## 2) 利便性の良さ

当保育園は市西部の幹線道路沿いにあることから働きながら子育てをする保護者にとって送迎等も含め利便性が良く、現在定員の 20% までの許容範囲である 70 名前後の子どもが通っている。

当園には 0 歳児のクラスがあり、また特に 0 歳から 2 歳児までの一時的保育を市内保育園の拠点園として実施し専任の保育士を 1 名確保していることもあり、0 歳児から満 2 歳までの子どもを預かり保護者と共に一人ひとりを大切に、きめ細やかで丁寧な関わりに心掛け、伸び伸びとした家庭的な雰囲気の中で温もりのある保育を行っている。

早い時期から関わりを持つことから 3 歳以上になっても利用を継続する子どもも多く、現在、年長クラスの子どもたちが近い将来通う小学校は当園の位置する小学校区の井上小学校も含めて四つにわたるといふ。

平成 27 年 4 月から子ども・子育て支援新制度に入り、「量」と「質」の両面から社会全体で子育てを支えることが掲げられ、「量」的な面でも子どもの年齢や親の就労状況などに応じた多様な支援を用意し教育・保育や子育て支援の選択肢を増やすこと、1 人目はもちろん、2 人目、3 人目も安心して子育てできるように待機児童の解消に向け教育・保育の受け皿を増やすこと等が盛られている。

保育サービスを利用する保護者のニーズのポイントとして利便性・料金・信頼性がバランス良く保たれている保育所が求められていることから、当保育園の「利便性」の良さは今後も支持されていくのではないかとと思われる。

## 3) 安定した保育の提供

当保育園の今年度の職員構成は結果的に、福祉や保育の経験が豊かなベテランの職員が揃う形となっており、保育に対する自らの確固たる考えを持っており子どもの最善の利益に配慮し、ぶれることなく日々の保育サービスを提供している。

従って、子どもに対する取り組み方も各職員の経験を生かした質の高いスキルとして実践されており「子どものほめ方」、「公平な声掛け」、「公平な意見のくみ上げ」、「一人ひとりの子どもの把握と一人ひとりに応じた保育の実践」など、この園の優れた部分が保護者アンケートや保育現場、実際の記録などから見て取ることが出来た。

子どもや利用者の満足度を高めるためには職員の教育や研修が必要で、市公立保育園全体として長野県社会福祉協議会の実施する福祉職員生涯研修各課程を始めとした外部研修や市保育連盟主催の研修などに参加したり、体育指導や食育指導等の研修に自発的に参加している。また、園内研修もテーマを絞れば 1 ヶ月に 1 回、毎週行われる職員会議の 1 回を使い実施されており、外部研修参加者による報告なども職員会で行われている。

保育業界では慢性的な人材不足が言われている中ではあるが、当保育園の職員は日々保育の質を高めることに努め、子どもと子どもの保育を必要とする保護者の立場に立って、安心・安全・安定した保育を提供することにより、地域に本当に求められる保育園、地域になくてはならない存在として地域に愛され、地域社会に貢献できる保育園を目指している。

#### 4) 職員の意思統一と働きやすい職場づくり

当園の保育児童数の定員 60 名、職員数 21 名という園の規模は重要事項や緊急事項の徹底・共有しやすい規模であり、それらによる優位性が極めて有効に活用されており職員の意思が統一されている。

園長と各職員がそれぞれの担務をきちんと理解し棲み分けをしており、また、そうした中で園全体の保育体制も有機的に連動している。園長と補佐の業務分担もしっかりとできており、例えば、方向性や大枠での園長の統括、ディテール・具体的実務面での補佐の統括等が確実になされ、園の運営に大きく寄与している。

毎回の職員会議事録での園長講話や会話、応酬、今般の第三者評価に対しての職員の自己評価、第三者評価訪問調査時の職員面接からも働きやすい職場づくりに全職員で取り組んでいることが見て取れる。当保育園でも正規職員、嘱託職員に加え、朝夕延長のパート保育士、休憩代替パート保育士、保育支援員などで人員を確保し、また、職員の健康と安全の確保についても市全体として取り組み、市総務課で担当している「ホッとする相談室」に相談をすることができ、市職員の保健師が各保育園を定期的に巡回しストレスチェックや健康診断、労働安全衛生等について職員を指導している。休暇の取得についても年度当初に職員の希望を聞き入れ職員間で調整しており、また、園長との面談を年 1 回行い、更に、随時の相談も行うことができる。

職員との面接の中でも異口同音に感じる事が出来たが、一人ひとりの職員のチームとして協働しようという意識も高く、それが職員相互のワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすさ、やり甲斐に繋がっている。

#### ◇特に改善する必要があると思う点

##### 1) 保護者への保育園の基本的な考え方(保育目標・保育方針)の周知

市公立保育園としての保育理念があり保育園の存在意義、使命や役割等を明確にしている。また、共通の保育方針が定められており、当保育園のランドデザインでも昨年度までの「保育課程」や「私たちの大切にしているもの」などを踏まえ検討し園としての保育理念や保育目標が作成されており、職員会議や内部研修会でも理念や方針、目標についてふれ、その都度理解を深めている。

保護者へ周知するために事務室や各保育室などに掲示しており、子どもの発達過程に応じた当保育園独自の分かりやすい保育目標もあり市の保育理念や基本方針にも連動している。

保護者アンケートの保育園の基本的な考え方(保育目標・保育方針)に関する項目について無回答という方が四分の三ほどありその存在や意味することについて理解が得られていないのではないかとと思われる。

今後、更に、保護者の集まる機会などで市としての保育理念や基本方針、園の目標等についてその意図するところをより双方向的な形で説明されることを期待したい。

##### 2) 世代間交流の推進

当保育園は田園風景に囲まれ、大規模農家の多い伝統的な地域に立地しており、従来からのこの地に住むどちらかと言えば大家族の子どもが多い中、一方ではこの地域とは関係ない家庭や小家族の子ども利用も増えている。

特に果樹園などの農地の中に立地する当園では子どもの生活環境の違い、保護者や家族との関わりの違いなどから生ずる子ども一人ひとりの差異にどのように対応して行くのかが大きな課題ではないかと思われる。また、3 歳以上になり近い将来通う小学校との関わりも大変重要なものになってくるのではないかとと思われる。

当保育園では地区の人々からワッサー(桃)やリンゴの収穫体験に招いていただいたり、JA 青年部の方にさつま芋づくりの指導を受けたりしているが、今まで交流してきた地域のお年寄りが高齢化してきたことによりお年寄りとの交流が現在休止状態となっている。地域に開かれた園として、子ども達との交流で高齢者が生き甲斐を持ち地域社会に対し貢献をすることと、子ども達も高齢者との交流で地域の文化に目覚め地域の人々と豊かな関係性を持って成長して行くことができるのではないかとと思われる。

今後、地元地域から通園している子どもの保護者等に働きかけ、可能であれば再度再開をお願いするか、他の地域の高齢者との交流を図られるなど、継続性に配慮した新しい仕組みを構築されることを期待したい。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（平成30年 2月 28日記載）

今回、初めて第三者評価を受け、気づくことがたくさんありました。職員で話し合った保育目標に沿って具体的な事業を実践しているつもりでいましたが、保護者の皆様や地域の方々に積極的に周知し、理解を求めていく姿勢が不十分であったことに気づかされました。保護者の皆様からいただいたご意見を真摯に受け止め、課題を解決していきたいと思えます。

また、利便性や環境に恵まれ、地区外からも多くの方が通園されている当園の特徴を生かし、地域の方々との交流を推進し、小さいお子さんをお連れのお母さん方がいつでも気軽に立ち寄れる子育ての拠点となる保育園づくりを目指していきたいと思えます。

今後も保護者、地域の方々、来園されるすべての方々の声をお聞きしながらよりよい子育て支援ができるよう職員一同努めていきたいと思えます。